

一朝の礼拝から 1—

「神様のご計画」

創世記 11 章 1～9 節

皆さんは、世界に言語がいくつくらいあるかご存知でしょうか。研究者によって数え方は異なりますが、6,900 くらいと言われています。ところで、今日お読みしたのは、有名な「バベルの塔」の物語です。この物語は、「人類が塔をつくって、神様に挑戦しようとしたので、神様は塔を崩した」という解釈が一般的です。そして、この解釈から派生して、「バベルの塔」は、「傲慢に対する戒め」や「実現不可能な計画」の意味でも用いられることがあります。

しかし、神様にはもっと大きなご計画があるように思います。たしかに、互いの言葉が通じなくなったことで、意思の疎通が難しくなり、誤解や軋轢が生まれることもあったかもしれません。一方で、意思の疎通が容易でない状況では、互いの気持ちを考えたり言いたいことを推測したりと、互いが配慮するようになったのではないのでしょうか。また、異なる言語を話す人々の間では、互いの言葉が混合し、新たな言葉が生まれることもあったでしょう。さらに、近年では、AI 技術などを使った自動翻訳など、意思疎通を図るツールも開発されています。このように、私たちがコミュニケーションのために新しいことに挑戦したり、考える機会を与えられたとも考えられます。

このようなことから、神様が言葉を混乱させ、互いの言葉を聞き分けられないようにされた背景には、私たちが思い至らない大きなご計画があったように思うのです。

一見すると試練と感ずることも、神様が与えてくださった何らかの機会であり、ご計画であると思います。そのようなご計画のうちであって、日々神様の御心に適った行いをしていきたいと思えます。

富永 祐子 (日本文化学科)

一朝の礼拝から 2—

「神様の都合で生きる」

コリントの信徒への手紙 I 6 章 19～20 節

先日、携帯電話会社大手の KDDI は、大規模の通信障害を起こしました。この通信障害の被害に遭われた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

この現象をみて、「サバイバルファミリー」という映画を思い出しました。この映画は、2017 年に公開された映画です。ある日突然、日本全国の電力供給が止まり、ガスや水道などのライフラインが全て停止してしまいます。携帯電話やパソコンはもちろん、時計までも使用不可能となり、あらゆる情報網が遮断され、人々は自給自足の生活を強いられます。東京都内に住むある家族は、数日で生活に困窮し、「西日本に行けば電力網が生きている」という噂を頼りに、親戚のある鹿児島へ向かう決意をします。しかし、飛行機や新幹線などの交通機関が動いているわけもなく、高速道路を自転車、鹿児島へ向けて移動します。自転車移動での生活も本州の終わりに近づいた頃、家族は、蒸気機関車の音を聞きます。その音を頼りに駅を探し出し、水と石炭さえあれば動く蒸気機関車に乗り込み、鹿児島を目指します。蒸気機関車には、大勢の人が乗車していました。その映像は、人間が際限なく便利さを追求していき、アナログの強みと恩恵を忘れた、今の社会に問いを投げかけられているようでした。

わたしたちも、自分の都合の良さや便利さを求めて行動してしまうことがないのでしょうか。私自身、学生の成長のために働いているはずですが、こちらがやった方が早い。手間がかからない。など、何が学生の成長に繋がるかを忘れて行動してしまうことがあります。この行動が、学生の将来にどう影響するのかを考えて行動しなければと反省しています。

本日与えられました聖書箇所は、イエス・キリストの弟子パウロが書いた、人間の感情の赴くままに行動するコリント教会の信徒への戒めの手紙です。「人間の都合から生まれた行動は、神の栄光を現すことができない」と教えてくれているのではないのでしょうか。学ぶとき、働くとき、大切な決断をするときに心を静め、人間の都合に支配されることなく、神様が示す行動を選び取りたいと思えます。

大曲 喜美子 (宗教センター)